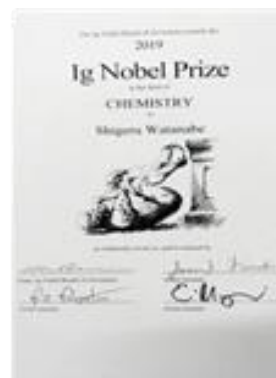


人々を笑わせて考えさせる研究 —Ig Nobel Prize

渡部 茂 (明海大学保健医療学部 教授)



1951年生まれ。歯学者、歯科医師。日本子ども学会理事。日本子ども虐待防止歯科研究会会長。1977年、岐阜歯科大学卒業。東日本学園大学助教授、Manitoba大学客員教授、明海大学歯学部教授を経て、2018年より現職。主な著書に『MACRO TO NANO SPECTROSCOPY』(Jamal Uddin ed. INTECH) ほか多数。専門は小児歯科学。



突然ですが、皆さんが日々行っている研究に「笑い」はありますか？

いや面白さはあっても笑いとは？・・・という人がほとんどではないでしょうか？ウシの排泄物からバニラの香り成分「バニリン」を抽出。心臓移植後のマウスに「椿姫」を聴かせると、「モーツァルト」より生存期間が延びる。ハトが寄り付かない銅像をヒントに、カラス除けの合金を開発、等々、思わず笑っちゃいますが、これらは全て過去のイグ・ノーベル賞の受賞タイトルです。実はこれ、表面は笑いに包まれているが、中身をよく見ると、見事に科学的な方法を駆使して実証されていることが分かります。

イグ・ノーベル賞(1991年設立)は毎年、受賞の公式基準「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる業績」に合致する項目から条件をクリアした10程度の個人・団体が選考されます。選考は10000を超える論文の中から、ノーベル賞受賞者を含むハーバード大学やマサチューセッツ工科大学の教授ら複数の選考委員会で書類選考、審査を経て行われます。インパクトのある斬新な方法によって、光の当たりにくい分野の地道な研究に、一般の人々の注目を集めさせ、科学の面白さを再認識させてくれるという貢献に繋がっています。

当日は今回受賞しました研究、「5歳児に「つばちょうだい」と言ってお願いしては、重量を測定した食べ物を噛んでは吐き出させて求めた、「5歳児が1日に分泌する総唾液量」の裏技についてご紹介いたします。

**渡部 茂 理事が
「イグ・ノーベル賞」を受賞!**

人々を笑わせ、考えさせる独創的な研究に贈られる「イグ・ノーベル賞」の2019年度の授賞式が9月12日にアメリカのハーバード大学で行われ、日本子ども学会理事で第7回学術集会の大会長を務められた明海大学の渡部茂教授らの研究グループが科学賞を受賞しました。

受賞対象となった論文は、渡部先生が北海道医療大学歯学部の助教授だった時代に同僚とともに4年をかけて研究し、1995年に執筆したもの。男女15人ずつの5歳児に6種類の食物を咀嚼後吐き出させ、一日量、咀嚼時間、回収率等を精密に計算して食事時の唾液量を算出した。そして、食事以外の時間と合わせて「5歳児の1日あたりの総唾液分泌量が500ミリリットル」に上ることを突き止めた。

授賞式では、渡部先生とともに、かつて被験者となった3人のご息も登壇して当時の様子を実演。イグ・ノーベル賞の授賞式らしく、会場は温かな笑いに包まれました。



主催者代表と過去のノーベル賞受賞者のサイン入り賞状



渡部先生の3人のご息が30年前の実験を実演。爆笑を博した

渡部 茂 (わたなべ・しげる)
1951年生まれ。歯学者、歯科医師。明海大学保健医療学部教授。日本子ども学会理事。日本子ども虐待防止歯科研究会会長。1977年、岐阜歯科大学卒業。東日本学園大学助教授、Manitoba大学客員教授、明海大学歯学部教授を経て、2018年より現職。主な著書にMACRO TO NANO SPECTROSCOPY (Jamal Uddin ed. INTECH) ほか多数。専門は小児歯科学。

